事例No.	2750
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	ふるさとむら宝谷 運営管理組合

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・観光

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

ふるさとむら宝谷運営管理組合による
「そば」を核とした地域おこし活動

出典

令和３年度ふるさとづくり大賞事例集

chapter 07



ふるさとづくり大賞 ―団体表彰―

ふるさとむら宝谷運営管理組合による
「そば」を核とした地域おこし活動

ふるさとむら宝谷（ほうや）運営管理組合



取組の概要

稲作の減反政策が進む中、宝谷地区では稲の転作作物として「そば」を栽培。しかし、立地の不便さから地区農業に限界を感じた農家が出稼ぎに出たり、希望を見い出せない農家の離農離村が相次いだ。その状況を目の当たりにした当時の生産組合長が、何とかそばで村おこしをできないものかと地区内で協議をはじめ、以降、地区全体でそばを核とした地域づくりを継続している。

取組のプロセス

1985年代～

- 宝谷から人が減っていく
- 地区存続の危機に直面
- 一方で、稲作からそばへ転換する農家は増加

きっかけ

・米の減反政策が進められ、転作作物としてそば栽培し始める農家が出てきた反面、農地を放棄する農家も出てきた

1996年～

地区住民同士で話し合い、そばを活用した地域づくりを検討

・地域再生と、地区の農業経営の安定化を目的に話し合い、転作田の団地化を図る
・「宝谷地区そば転作組合」を設立し、そば栽培の本格化
・汎用コンバイン、乾燥機、選別機を組合で所有し、個々から共同作業という力を合わせる農業へ転換




- 宝谷で穫れたそばを宝谷で活用する取り組みへと発展させたい

1997年～

- 鶴岡市（旧櫛引町）からの支援により、施設を設立

「ふるさとむら宝谷」の設立、全戸加入の「ふるさとむら宝谷運営管理組合」を設立

・「そば転作組合」から「そば生産組合（のちの農業法人）」へ
・そばの提供、そば打ち体験、加工販売など、地区をあげて運営に取り組む
・地区内の雇用を創出
・地区公民館としても利用




- 宝谷の新そばを多くの方から食べてもらい、宝谷そばを広めたい

1998年～

宝谷そば新そば祭り

・当初は地区内だけの収穫祭であったものを集客型イベントに変更
・地区住民が総出で準備・運営
・まつり会場である「宝谷そば屋」の店先の道路を活用した全長 200 mの流しそばが目玉となっている




- 宝谷の魅力的な大自然×宝谷そばをマッチングさせたイベントを開きたい

2013年～

宝谷そば「お花見カフェ」

・そばの豊穣祈願としてのイベントを考案
・一面にそばの花畑が広がる９月に毎年開催
・花畑の中で生演奏を聴きながら、そば粉を使ったスイーツが堪能できる



2018年～

地域おこし協力隊の着任、手づくりピザ窯を設置

・そば粉のクッキーを開発、商品化。パッケージデザインの開発
・キャンプ場に手づくりピザ窯を設置
・HP を開設



今後の展望

- **後継者の育成**
- **そばとともに宝谷の魅力を積極的に発信**
- **宝谷産「でわ宝」の名を全国に広めたい**

DATA

事例名：『「そば」を核とした地域おこし活動』
　　ふるさとむら宝谷運営管理組合
所在地：山形県鶴岡市宝谷字舞台 170 番地
連絡先：TEL　0235-57-4415
　　FAX 0235-57-4415
　　E-mail　furusatomura.houya@gmail.com
ホームページ：「ふるさとむら宝谷」で検索

